



39,419 円

男性会社員の毎月のお小遣い額

2020年「サラリーマンのお小遣い調査」
新生銀行

「お父さん、また酔っぱらって帰ってきて。来月からお小遣い減らしますよッ!」「それだけは勘弁してください〜(泣)」。家庭内ではそんな攻防も繰り返り広げられていそうなお父さんのお小遣い事情。自分は多いほうなのか、それとも少ないほうなのか、世間の相場が気になるところだ。

新生銀行が2020年4月に実施した「サラリーマンのお小遣い調査」(20代~50代の男女2,700名)によると、男性会社員の平均お小遣い額は1カ月39,419円で、4万円に満たない額が相場のような。年代別でみると、20代と50代で41,000円と、やや高くなっていった。

それでは、4万円弱のお小遣いは一体何に使われているのだろうか。同調査における男性会社員の1日の平均昼食代は585円、1回の飲み代は5,232円となっている。1回の飲み代と月平均の回数から算出した1カ月の飲み代は11,620円。これに昼食代20日分11,700円を加えると23,320円となり、お小遣いの6割近くを占めることになる。残り16,099円の中から、その他雑費や趣味の費用を捻出しているということだろうか。

共働きの世帯の占める割合が高い昨今、夫婦の財布は別という家庭もあるだろう。同調査で共働き世帯の給与管理状況を見ると、男性会社員の51.3%が「妻が管理し夫がお小遣いをもらう」パターンだった。これに対し、逆のパターンすなわち「夫が管理し妻がお小遣いをもらう」は1割以下。お父さんのお小遣い攻防はまだまだ続きそうだ。

5,114 円

高校生の毎月のお小遣い額

2015年「子どものくらしとお金に関する調査」
金融広報中央委員会

「ちゃんとお手伝いするからお小遣い上げて〜」「そんなこと言って、お手伝いするのは最初だけでしょ」。お父さん同様、あの手この手で値上げ交渉が繰り返される、子どものお小遣い。子どもの年齢にもよるが、相場はどのくらいなのだろうか。

金融広報中央委員会が全国290校の小学校・中学校・高等学校を対象に実施した「子どものくらしとお金に関する調査」(2015年度)では、まずお小遣いの有無について尋ねている。それによると小学生の7割強、中学生の8割強、高校生の約8割がお小遣いをもらっている。もらう相手として親が最も多いのは当然だが、祖父母からの割合も意外と高い。とりわけ小学生は高く、4割強となっている。

また小学生では、もらい方や金額についても年齢により異なる。最も多かった回答は、「月に1回」もらう場合には500円、「時々もらう」場合には低学年・中学年が100円、高学年が1,000円。中学生では1カ月の平均額は2,536円で、最も多いのは1,000円。高校生になると平均額は5,114円で、最も多かった回答は5,000円だった。

お小遣いの使い方をみると、小学生では「おかしやジュース」「ゲームソフトやおもちゃ類」が上位を占め、中学生・高校生ではいずれも「友達との外食・軽食代」「おやつなどの飲食代」が1位、2位を占める。つまりほとんどが飲食やゲーム関連だ。

ちなみに、お小遣いが不足した時の対応は「買いたいものをがまんする」や「節約する」が最多。お小遣いの中でやり繰りする事も、立派な学びである。

(執筆/ライター 更田 沙良)